

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川)  
平成27年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価 1年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	河川水位変動に伴う漏水面の特性変化が地下水涵養量および河川流量へ及ぼす影響の評価	岐阜大学 大橋 慶介	b	調査対象区間の河川流量や地下水位等の観測や浸透流動解析の準備は着実に進められている。河川の流れの計算と地下水の計算との連動の取り扱いに留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	河川水と地下水の交換現象に伴う河川流量の変動量を、河川・地下水位観測、河川流量観測、および河川流・地下浸透流の解析によって明らかにする。			
テーマ	四万十川における治水とスジアオノリの生育環境創出を両立させる河道管理技術の構築	高知工業 高等専門学校 岡田 将治	b	現地調査等によって流況や河道特性などが整理されるなど研究は着実に進められている。スジアオノリの生育条件を明確に整理した上で河道管理の提案をすることに留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	治水および生態環境保全・創出に関する課題を両立させることのできる河道改修および維持管理技術を構築する。			
テーマ	UAVと水域可視化処理による河川地形の新しい計測手法の開発	岐阜大学 沢田 和秀	c	水面下の地形計測等の検討が進められているが、その成果の適用は限定的であると考えられることから、研究計画を修正する必要がある。
概要	UAVによる写真測量の適用範囲を拡大することにより、河川管理に資する付加価値の高い調査手法(水面下及び樹林下の地形形状等を計測する技術、地形・画像情報から河川管理に資する情報取得)を開発する。			
テーマ	堤防の三次元構造と降雨・水位の浸潤履歴が及ぼす堤体の不安定化に関する研究	中部大学 杉井 俊夫	a	SH貫入試験による層ごとの土質及び物性値の推定法の検討、堤体基礎の成層構造や間隙とパイピング発生への影響に関する検討等、研究は着実に進捗していることから、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	堤防の三次元構造を把握すると同時に物性値も評価し、堤防の安定性を評価する。また、降雨履歴、水位履歴の浸潤履歴が及ぼす浸透過程への影響を明らかにし、堤体の不安定性について検討する。			
テーマ	宮崎県中部河川とそれに面する海岸における土砂の鉱物学的類似性の比較	宮崎大学 鈴木 祥広	b	土砂の化学成分・鉱物組成から日向灘の海岸表層堆積物と各河川の堆積土砂との関連性の把握について着実に進められている。河川管理や海岸管理の課題解決への道筋に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	宮崎県中部の河川流域およびこれらに面する海岸を対象とし、各地点の土砂の鉱物学的特性の類似性によって、流域の土砂動態の実態を解明する。			
テーマ	利根川八斗島観測所近傍における計測技術と数値解析の融合による土砂動態の把握	東京大学 知花 武佳	b	高水観測により様々なデータ取得がなされるなど計測技術に関する部分の研究は着実に進められている。研究目的である計測技術と数値解析の融合に向けた道筋に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	申請者らが開発してきた流速計測技術を応用した流砂量と河床波の計測技術と、河床波の発達要因の解釈の拡張の二つを基軸として、八斗島周辺における土砂動態の要因を把握した上で、10年単位の長期的展望を提示する。			

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川)  
平成27年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価 1年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	携行型蛍光X線分析を利用したマクロ的な流域土砂動態に関する研究	富山県立大学 手計 太一	b	携行型蛍光X線分析の河川の土砂への活用実証は着実に進められている。研究目的である土砂動態の解明に向けた道筋に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	蛍光X線分析を利用して流域の土砂の化学元素を測定し、それを基にした流域地球科学図の作成とマクロ的な土砂動態を解明する。			
テーマ	湿原の効果および融雪期の特徴を再現できる洪水予測モデルの開発	神戸大学 中山 恵介	b	洪水予測モデルの構築は着実に進められている。再現しようとする現象や用いる手法の有効性を明確にすることに留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	寒冷地域に特有の融雪洪水において、湿原域での氾濫による洪水ピークの到達時間の遅れを考慮でき、実際の業務において洪水予測モデルとして使用可能なモデルを開発する。			
テーマ	生物多様性の相補性に基づく堤内地氾濫原水域の保全・再生優先度評価手法の開発	北海道大学 根岸 淳二郎	b	種多様性の解析や解析のための試料収集は着実に進められている。氾濫原水域の保全・再生の優先度評価に導く道筋に留意しながら、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	種・遺伝子レベルの生物多様性の相補性に着目し、石狩川近傍の氾濫原水域の保全・再生における管理優先度の評価手法の開発を行う。			
テーマ	局地的豪雨の時空間分布を考慮した洪水氾濫のリスク評価	北海道大学 山田 朋人	a	流出量の不確実性について議論可能な理論的整理が進められる等、研究は着実に進捗していることから、現行計画のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	札幌圏を対象とした豪雨の時空間分布に起因する流出量および洪水氾濫リスクの確率的評価を行う。			

評価の凡例

- a:非常に優れた研究であった。
- b:優れた研究であった。
- c:条件付きで評価できる(研究費の減額等)。
- d:優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)。